

南海トラフ巨大地震

の防災訓練に参加してきました！

記 看護師 藤井 幸恵

9月1日の「防災の日」、「南海トラフ巨大地震に備えた広域医療搬送訓練」が各地で実施され、当院 DMAT 隊* も参加してきました。

想定は、午前10時に四国沖を震源にマグニチュード9クラスの地震が発生、高知・徳島両県に甚大な被害が発生したというものでした。当院 DMAT 隊は山口県防府北基地に設置された SCU (航空搬送拠点臨時医療施設) で、被災地域から搬送されてきた重症患者さんを診察し、県内の医療機関に安全に搬送する訓練を行いました。さらには山口県が被災したという想定で、重症患者さんを県外の医療機関に搬送するため、SCUに次々に搬送されてくる患者さんの診察、安定化治療を行いました。

● 当院 DMAT 隊と訓練の様子 ●



県から防府北基地に
参集要請あり、出動

岩国医療センター DMAT 隊



医師 2 名、看護師 3 名、
臨床工学技士 1 名



SCU の設置



頭部外傷患者さんの安定化治療



SCU から県内の病院へ搬送

今回の訓練では、実際に SCU 設置から模擬患者さんの安定化治療などを行うことができ、広域医療搬送についてとても学びの多い訓練となりました。訓練を通して、改めて日々の装備の確認や知識を深めることの大切さを感じました。DMATの活動は地震だけではなく、土砂災害や航空機事故、多重事故などがあります。一人でも多くの命を救うことができるよう、これからも DMAT 隊員として日々活動していきたいと思えます。

*DMAT(ディーマツト)とは？



DMATとは、「災害急性期(災害発生から48時間以内)に被災地に迅速に駆けつけ、救急治療を行うための専門的な訓練を受けた医療チーム」です。1995年に起こった阪神・淡路大震災では、初期医療体制の遅れから救命できたと考えられる“避けられた災害死”が多数あった可能性が指摘されました。この教訓を生かし、発足された医療チームです。